

「糖尿病網膜症」をご存じですか？

～ 日本人の中途失明で2番目に多い病気です ～

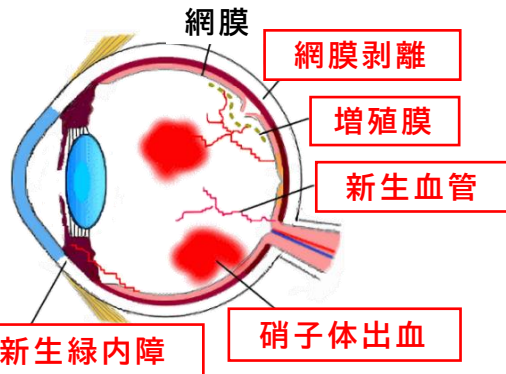
○どのような病気ですか？

糖尿病で血糖値が高い状態が続くことにより、眼底の細い血管が障害され、血管の壁がもろくなったり、詰まったりすることによって起きてくる網膜の病気を糖尿病網膜症といいます。その名の通り、糖尿病から発症する眼の病気で、糖尿病の3大合併症(網膜症・腎症・神経障害)の1つといわれています。この病気が進行すると、視力が低下し、治療をせずに放置すると失明に至ることもあります。早い段階で発見し適切な治療を行えば、完全に治ることはありませんが、悪化を防ぐことが可能です。日本人の中途失明で2番目に多い病気といわれています。

○症状は？

初期には自覚症状はありません。硝子体出血や網膜剥離が生じると、飛蚊症や視力低下を自覚しますが、この時にはかなり進行した状態であることがほとんどです。視力に大切な黄斑部に浮腫をきたすと、物を見たときに中心部分が歪んで見えたり、かすんで見えたりします。

眼の断面図



○治療について

ごく初期の段階では、注意深く経過を見ていきます。高血圧や脂質異常症(高脂血症)などもある方は、病状の進行が早まる可能性があるため注意が必要です。進行が見られた際には、病期や眼の症状に応じて右のページのような治療を行います。糖尿病網膜症を悪化させないためには日頃の血糖コントロールが重要となります。

治療方法

- ・網膜光凝固(レーザー治療)・・・糖尿病網膜症を進行させる原因になる新生血管ができるのを予防したり、既にできている新生血管の活動を抑える(増殖を防ぐ)ために行います。黄斑部浮腫に対して行うこともあります。
- ・抗VEGF療法(硝子体注射)・・・新生血管の発生や増殖を抑えたり、深刻な視力低下を引き起こす黄斑部浮腫を治療するための薬剤を眼の中に注射します。
- ・硝子体手術・・・糖尿病網膜症の進行を防ぎきれず、硝子体出血や網膜剥離が起こった場合に必要になります。

糖尿病網膜症は、血糖値が良くても発症することがあり、症状がない段階で治療が必要なこともあります。血糖値の検査結果は良い状態が続いている方、過去に血糖値が高かったが今は落ち着いている方も、一年に一度は眼底検査を受けましょう。

開院2周年を迎えました

早いもので、開院してから6月1日で2周年を迎えました。今まで当院を支え、応援してくださいました皆様に心より感謝申し上げます。これからも皆様の「眼の健康」に貢献できるよう、質の高い眼科医療を提供し、自己研鑽に努めるとともにスタッフ一同チーム医療で診療に取り組んで参りたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

新江古田いわた眼科 院長 岩田進